

Reference D4

Japanese Patent Kokai No. 59-28909

Laid-opening date: 15 February 1984

Application No.: 57-137101

Filing date: 6 August 1982

Applicant: Kenji NAKAMURA (Mr), Osaka

Title: Applicator device for making-up and
method for producing the device

Claims:

(1) A making-up applicator device in which a layer of a water-soluble coat 12 is provided on the surface of a frame 11 forming a porous foam.

(2) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein said porous foam is compressed and fixed.

(3) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein the layer of said water-soluble coat 11 includes a surface active agent.

(4) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein the layer of said water-soluble coat 11 includes an aromatic agent.

(5) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein the layer of said water-soluble coat 11 includes an antibiotic disinfectant agent.

(6) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein the layer of said water-soluble coat 11 includes powdery cosmetic composition(s).

(7) The making-up applicator device set forth in claim 1, wherein the layer of said water-soluble coat 11 includes surface-active agent, aromatic agent, antibiotic disinfectant agent, and

powdered cosmetic composition.

(8) A method for manufacturing a making-up applicator device, comprising a first step in which a porous foam is coated and impregnated with a solution including a water-soluble pasty agent, and a second step in which the foam obtained in the first step is dry treated.

(9) A method for manufacturing a making-up applicator device, comprising a first step in which a porous foam is coated and impregnated with a solution including a water-soluble pasty agent, a second step in which the foam obtained in said first step is dry treated, and a third step in which the foam obtained in said second step is compressed and fixed.

Related disclosure:

As the porous foam used in the present invention it is possible to use a polyurethane foam, a vinyl polychloride foam, a polyester foam, a foam of polyvinyl alcohol, and the like, as continuous foams of synthetic resins, or a variety of foamed rubbers such as butadieneacrylonitrile rubber (NBR), butadienestyrene rubber (BSR), nitrile rubber (NR), silicon rubber, natural rubber, etc.

In the drawings:

11...Frame of porous foam

12...Water-soluble coat

13...Additive agent

⑨ 日本国特許庁 (JP)
⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開
昭59-28909

⑤Int. Cl.³
A 45 D 34/04
33/34

識別記号
厅内整理番号
6671-3B
6671-3B

⑩公開 昭和59年(1984)2月15日
発明の数 3
審査請求 有

(全4頁)

⑥化粧用塗布具及びその製造方法

⑦特 願 昭57-137101
⑧出 願 昭57(1982)8月6日
⑨發 明 者 中村憲司
大阪市東淀川区西淡路6丁目3

番41号

⑩出 願 人 中村憲司
大阪市東淀川区西淡路6丁目3
番41号
⑪代 理 人 弁理士 伊藤和三郎

明 著
1. 発明の名称 化粧用塗布具及びその製造方法
2. 特許請求の範囲
(1) 多孔質発泡体を形成する骨格表面に水溶性皮膜層が設けられた化粧用塗布具。
(2) 前記多孔質発泡体が圧縮固定された特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(3) 前記水溶性皮膜層が界面活性剤を含む皮膜層である特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(4) 前記水溶性皮膜層が香料を含む皮膜層である特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(5) 前記水溶性皮膜層が殺菌消毒剤を含む皮膜層である特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(6) 前記水溶性皮膜層が粉末化粧料を含む皮膜層である特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(7) 前記水溶性皮膜層が界面活性剤、香料、殺菌消毒剤、粉末化粧料、を含む皮膜層である特許請求の範囲第1項記載の化粧用塗布具。
(8) 多孔質発泡体に水溶性糊剤を含む糊剤を塗布含浸せしめる第一の工程と、前記第一の工程で得

られた発泡体を乾燥処理する第二の工程とからなる化粧用塗布具の製造方法。

(9) 多孔質発泡体に水溶性糊剤を含む糊剤を塗布含浸せしめる第一の工程と、前記第一の工程で得られた発泡体を乾燥処理する第二の工程と、前記第二の工程で得られた発泡体を圧縮固定化する第三の工程とからなる化粧用塗布具の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は多孔質発泡体を主体とした化粧用塗布具とその製造方法に関するものである。

近年レジャー指向の生活傾向にともない戸外(旅行等)での化粧、及びそれに関連するものに対しては、使用時の簡便性や携帯に利便性なもののが求められつつある。

例えば現状では化粧落しを行う場合においては、クレンジングクリーム、クレンジングティッシュ、ティッシュペーパー等と用意するものが多く持ち運びに難易度ことからも容易に理解できることである。

又、戸外での手や顔を洗う時でも、石ケンとタオル等、汚れを落すものと拭き取るものが必要で

ある。

これらの現状習慣に対し出来るだけ一つもので簡単に目的を達する事ができれば極めて有効なものとなりえる。

本発明は上述の背景に鑑みてなされたものであり、その目的とする点は、塗布具そのものに塗布又は拭き取り機能に加え洗浄機能、芳香機能、殺菌消毒機能、化粧機能等を保有させたものであり、そしてこれら成分が通常で簡単に脱落することなく使用時水を作用させると、極めて効果的に簡便的にそれをなしえるものを提供することにある。

他の目的としては、前記機能に加え、目的処理を終えた後は塗布具を水洗いして校れば拭き具として使えるものである事、更に携帯に便利であるため嵩張らないものとして提供できること、およびこのような化粧用塗布具を簡単に製造できるような製造方法を提供することを目的とする。

本発明は前記目的を、多孔質発泡体を形成する骨格表面に水溶性皮膜層が設けられている化粧用塗布具および多孔質発泡体に水溶性剤を塗布含む

- 8 -

圧縮固定材として用いることにより、嵩高い発泡シートが極めて薄くすることが可能となり携帯に便利なチーフとなる。そしてその使用時には、水に作用させることにより、水溶性皮膜層が水に溶解することで元の発泡シートに戻ることで使用時柔軟なチーフが得られる。

本発明において素材として多孔質発泡シートを選定したのは塗布機能、拭き取り機能が極めて良好であり（柔軟素材であることから）且つ圧縮固定化を一時的に行えることから使用時嵩張らないように処理できる理由からである。

以下図面に示した実施例に基づいて本発明を説明する。第1図は多孔質発泡体に水溶性剤を含む溶液を含浸して乾燥仕上げしたものと断面図であり、第2図は水溶性剤に各種添加剤を含む溶液を含浸して乾燥仕上げしたものと断面図である。

水溶性皮膜^{1,2}（水溶性剤からなるもの）は多孔質発泡体^{1,2}を形成する骨格^{1,2}表面に付着している。

そして、前述の各種添加剤^{1,2}を含む場合には

使せしめる第一の工程と、前記第一の工程で得られた発泡体を乾燥処理する第二の工程と、更には前記第二の工程で得られた発泡体を圧縮固定化する第三の工程とからなる化粧用チーフの製造方法によつて達成される。

なお、本発明において水溶性皮膜層には、界面活性剤、香料、殺菌消毒剤、粉末化粧料、等の添加剤も含まれる。

本発明の水溶性皮膜層に界面活性剤が含まれる場合には、水に作用させると洗浄効果の良い塗布具（チーフ）が得られる。

本発明の水溶性皮膜に香料、殺菌消毒剤が含まれる場合には、水に作用させると殺菌消毒効果に加え、使用後、香料成分が皮膚に残り爽やかな塗布具（チーフ）が得られる。

本発明の水溶性皮膜に粉末化粧料が含まれる場合には、水に作用させると水おしろいとなり発泡体が塗布具として簡単に化粧が出来るチーフが得られる。

又本発明の水溶性皮膜を多孔質発泡体シートの

- 4 -

水溶性皮膜^{1,2}中に分散された状態で骨格^{1,2}表面に付着している。

本発明において使用する多孔質発泡体としては、ポリウレタン発泡体、ポリ塩化ビニール発泡体、ポリエチレン発泡体、ポリビニルアルコールの発泡体、等の合成樹脂の連続発泡体。又は、ブタジエンアクリロニトリルゴム（NBR）、ブタジエンスチレンゴム（SBR）、ニトリルゴム（NR）、シリコンゴム、天然ゴム、等の各種発泡ゴムを用いることができる。

又多孔質発泡体の骨格^{1,2}表面に付着される水溶性皮膜剤（水溶性剤）^{1,2}としてはポリビニルアルコール、ポリビニルメチロール、カルボキシメチルセルロース、等のセルロース誘導体、メトキシセルロース、澱粉、アルギン酸ソーダー、タンパク、ポリアルキレンオキサイド系樹物、ポリアクリル酸の金属塩、澱粉—アクリロニトリルより生成せしめたカルボキシルアルカリ塩等乾燥時に固型化し極めて水に溶解し易い成分が良好であり、特殊なものとしてP.V.A—アクリル共重合

- 5 -

-56-

- 6 -

体等がある。

次に前記水溶性皮膜層/3に添加される界面活性剤(石ケン類を含む)としては使用目的に応じて選定すればよくカチオン界面活性剤、ノニオン界面活性剤、アニオン界面活性剤のいずれも可能である。

水溶性皮膜層/3に添加される香料についても天然、合成香料問わず好みの香料を添加することができる。

更に水溶性皮膜層/3に添加される殺菌消毒剤としてはメチルパラベン、エチルパラベン、ベンゼトニウムクロライド、ベンザルニニウム、クロラノン、ヒビテングリコネート、があげられ、用途により適宜配合すればよい。

本発明シートを水おしろい油布具として用いる場合には水溶性皮膜層/3に添加されるものとしてタルク、亜鉛華、金属脂肪酸、ホウ酸、炭酸カルシウム、色素、等から成る粉末化粧料を添加すればよい。

いずれにしても水溶性皮膜層/3に対して添加

- 7 -

この時圧縮加熱板に細孔を設けてその裏面より熱風を送り込むと短時間で多孔質発泡体の圧縮固定化が行われる。

これは多孔質発泡体の骨格表面に形成されている、水溶性皮膜どおしが乾燥固定化の段階で接着することから反発弾性を固定するものである。

以上の段階を経て本発明化粧用チーフはできあがる。

[実施例 1]

○ポリビニールアルコール12%水溶液	100部
○香 料	1部
○界面活性剤	0.5部

前記溶液に5%の発泡ポリウレタンシートを浸漬した後液切りを行い、90°Cの温風吹き出しの加熱圧縮板で15分間乾燥し厚み2mmの圧縮された拭き取り用芳香化粧チーフを得た。

[実施例 2]

○ポリビニールアルコール20%水溶液	100部
○石ケン(高級脂肪酸のアルカリ塩)	5部
○香 料	0.5部
○殺菌剤	0.8部

する添加剤/3は乾燥時に固定化し、多孔質発泡体の骨格表面に付着する事が前提となるため、その添加量については使用目的に応じて決定できるものである。

多孔質発泡体への水溶性皮膜(水溶性皮膜中に各種添加剤を含む皮膜)の形不方法については、水溶性皮膜を形成する水溶性樹脂(各種添加剤を含む)の水溶液又は有機溶剤液中に多孔質発泡体を浸漬含浸する、か、又はスプレー方式により前記溶液を多孔質発泡体に塗布含浸するか、更には、前記溶液を多孔質発泡体にナイフコーティングにより含浸塗布する方法で対応する事ができる。

次にこれら並布、含浸されたものは乾燥されるが多孔質素材より、乾燥条件を選定する。多孔質素材が劣化しない温度で処理すればよい。一般的には80°C~120°Cが望ましい。

更に、このものを圧縮固定化する場合には、強圧加熱プレス機にて前記乾燥工程で完全乾燥していない半乾燥状態のものを圧縮加熱して得るものである。

- 8 -

前記溶液をナイフコーティングで5mm厚みのポリウレタン発泡シートに並布含浸せしめた後80°Cで加熱乾燥と同時に加熱圧縮して厚み2mmの圧縮された化粧落し用の化粧用チーフを得た。

[実施例 3]

○ CMC 7%水溶液 → 100部
(カルボキシルメチルセルロース)

○タルク 80部	混合したもの → 25部
○亜鉛華 5部	
○ステアリン酸亜鉛 5部	
○香 料 適量	
○色 素 適量	

前記溶液をナイフコーティングで8mm厚みのブタジエンアクリロニトリルゴム(NBR)発泡体に並布含浸した後80°Cで30分間加熱乾燥し化粧用おしろい油布具を得た。

本発明によれば、多孔質の発泡体を構成する骨格表面に水溶性皮膜層を形成することで使用時点まで発泡体を膨張しないように保えることができる。これは発泡体を圧縮固定化することであり、水溶性皮膜が発泡体の復元弾性を一時的に固定化

- 9 -

-57-

- 10 -

する機能を有するものである。

従つて使用時には水に作用すると、水溶性皮膜が溶解し発泡体の柔軟性と風合いが再現されることとなる。

次に本発明による発泡体骨格表面に形成される水溶性皮膜は、他の添加剤の保持機能を有する。

前述の如く、界面活性剤、香料、殺菌消毒剤、粉末化粧料等、添加する成分を変化させることにより極めて簡単に目的商品を得る事が可能となる。

そして前記二つの目的を組み合わせる事により携帯に便利でしかも簡便に使用できるものとして成り得ることとなる。

又いずれの方法をとつても本発明による化粧用洗布具は使用目的を終えた後、水洗を行えば通常の拭き機能を有するチーフとしてなん度も利用できることとなる。

4. 図面の簡単な説明

第1図：多孔質発泡体に水溶性糊剤を含む溶液を含浸して乾燥仕上げしたものと断面図。

第2図：前記水溶性糊剤に各種添加剤が配合され

た溶液を含浸させた後乾燥仕上げしたものと断面図。

各部の名称

11…多孔質発泡体の骨格、12…水溶性皮膜、13…添加剤。

特許出願人

中 村 順 司

代理人

伊 藤 和 三



- 11 -

- 12 -

